

小杉山円満寺 令和四年青葉まつり号

寺だより

新庄市五日町五九一四

TEL 二一〇四三三三

FAX 三三一一〇一六六

発行人：山尾瑛紀

芽生えの季節

境内にイチヨウの木があります。

四月半ばまでは冬の枝のままのようでした。それが、枝にちよんちよんと小さな小さな点々が見え始めました。次の日には、それらが少し大きくなりました。四、五日経つと、黄緑色の点々になりました。

五月になり、イチヨウの木はちよつと大きな黄緑色の点々に覆われています。



本堂前のカンゾウの芽もしかり。ちつちやな尖った芽がたくさん、つんつんと顔を出していました。日に日に芽が伸びて、今では三十センチぐらいの丈になりました。アジサイもモミジもツツジも、一斉に芽吹き季節です。鯉のぼりが若葉に映えます。

青葉まつり 五月二十二日(日)



青葉まつりとは、真言宗の宗祖・弘法大師のご誕生をお祝いする行事です。

弘法大師のご生誕は宝亀5年(774年)六月十五日です。弘法大師がお生まれになった六月は緑が美しい季節ですので、このお祝いを「青葉まつり」と称しています。当円満寺では、五月の末に執り行っております。

祭壇の正面に弘法大師の御影を飾り、生誕を祝う法要を行います。

法要の際には勤行式に従ってご詠歌やお経をお唱えしますが、次のようなご宝号も唱えます。

ご宝号 南無大師遍照金剛

「ご宝号」とは、仏さまや高僧のお名前を、敬意を込めてお唱えするものです。ご宝号をお唱えすることによって、多くの功德をいただくことができます。

数あるご宝号の中でも、私たちが特に大切に唱えしているのが、宗祖弘法大師空海のご宝号「南無大師遍照金剛」です。

「南無」という言葉は、インドの言葉「ナマス」の音写で、信じ敬うことをいい、「帰命 きみよう」「敬礼 きょうらい」などと訳されます。

「大師」は朝廷から高僧に対して与えられるおくりなで、空海は延喜二十一年(921)に醍醐天皇より「弘法大師」をいただきました。「大師は弘法に取られ」という言葉があるように、弘法大師はとて有名です。

「遍照金剛」は空海が、師の恵果阿闍梨よりいただいた「密号」という名前です。

遍照は、仏さまの光が陰・日向分け隔てなくすべてを照らし、見守ってくださいることを意味します。

金剛とは、私たちの煩惱を打ち砕くダイヤモンド

ンドのように堅い仏さまの智慧を意味します。

言葉の意味を知ってお唱えすると、いつそ
う気持ちが進められます。

弘法大師の

持ち物

青葉まつりで飾られる
御影は、前のページのお姿
です。

持っておられるものは

二つ、右手に五鈷杵、左手

には念珠ねんじゆです。



五鈷杵は法具で、密教では金剛杵こんこうしよといい、金剛つまりダイヤモンドのように堅固な仏さまの智慧の象徴です。

また「鈷こ」とは、昔インドで護身用にされたいた武器を指す言葉で、杵から伸びている爪のようになつたものの本数で呼ばれ、独鈷杵、三鈷杵、五鈷杵があります。

お大師さまの手の中にあるのは、五鈷杵。
お大師さまが持つからには何か意味があるの
では？

五鈷杵は金剛界、胎藏界両部の曼荼羅の理と
智、すべての徳を象徴している重要な法具です。
五鈷杵を持つ手は、手首を返すような変わった
持ち方をしていきます。不堅不横ふじゆふおうといい、自分

の悟りと衆生の救済を意味します。

もう一方の念珠は、数珠ともいわれ、お
もいの珠、数える珠ともいいます。

僧侶の行法には欠かせぬ法具で、数珠に
ついて書いてある経典には、肌身離さず持
つようにとあります。

さて、お大師さまはどのような想いでこ
の二つの法具を持ち物とされたのでしょうか。

今日の法語

「悠々」

冬を乗り越え、草花は芽生えの季節を迎
えています。しかし、冬の間、暖かい太陽
の光もなく暗く厳しい寒さだけだったら、
春に花は咲くでしょうか。お大師さまは、

「冬天に暖景無くんば即ち梅麦何を以て
か華を生ぜん」(性霊集)

と仰いました。私たち人間も、常に厳しく
気を張っているだけでは行き詰まってしま
います。ひたむきな努力や物事を突き詰め
ることはとても立派なことですが、たまに
は肩の力を抜いき、悠々と心穏やかに過ご
してみませんか。

本山智積院季刊誌よ

り

境内スポット

びつくりしまし
た！

枝に白い花が！
桜の花です！

昨年こぞの秋、桜の
木を切りました。
太い丸太は製材用
に取り分けました
が、残りの細いも
のは集めて重ねて
おきました。

先日、それらの
枝を見てみたら、

なんと花を咲かせていたのです。
なんとすばらしい生命力でしょう。命の不思議です。



開山四百年記念

二〇二四年・

令和六年

